

第一章 チェルノブイリで何が起こったか

1. このストロンチウムは身体のなかに入りますと、脊髄に入りまして白血病を起こします。・・・これ（セシウム）は筋肉に入って肉腫を起こします。・・・それが牛肉などにはいりはじめたのです。・・・これ（ヨウ素）は喉にある甲状腺にガンや腫瘍を作る・・・。（P 19）
2. （チェルノブイリ事故による放射性物質の放出量について）、つい最近まで新聞記事や報道は数千万キュリーしか出なかったというソ連の報道だけを発表してきました。そんなはずはない。・・・実際には、合計して数億キュリーではない。それよりはるかに多い10億キュリー前後だろう。（P 22）
3. （チェルノブイリ事故に関連して）ニュースなどではマスクもなしに超危険地帯で働いている人の姿をみましたが、あの人たちはフィンランド方面から送りこまれたエストニア人だったらしいのです。恐らく危険を知らされずにつれてこられたのでしょう。・・・10月には彼らもこの危険に気づきはじめ抵抗しはじめたため、12人が射殺されたとAFP電が伝えています。・・・囚人なども働かされているに違いありません。（P 36）
4. IAEAに提出されたソ連のレポートは全て嘘であり、実は、それまで正常だった炉がいきなり異常になると、わずか4秒で爆発してしまった。・・・これでは全世界のいかなる緊急安全装置も爆発を防ぐことはできない。・・・再び大爆発を起こすという現実が暴露されてしまった。これは全世界の原子力産業にとってきわめて具合が悪い。そこで（IAEA）は「お前はこういえ」とソ連にレポートを書かせた。（P 39～41）
5. 5キュリーで5人死んだから1キュリーで1人死ぬと・・・そうではありませんね。例えば、この会場に5キュリーの ^{60}Co がおいてあり、・・・いくらでも人を殺せます。（死んだ人）が火葬場に行けば、その人が焼かれてそこからでた死の灰がまた新たに人を殺していく。だから今度のチェルノブイリ事故のため何人死ぬという数字を、色々な学者が推定していますが、このような数字を出すこと自体が非科学的で、話になりません。（P 51～52）
6. ヨウ素を使ってホルモンを作ります。・・・陸上にはこのヨウ素というものがほとんど存在しない。海にはたくさんあります。ですから海草をたくさん食べるとヨウ素を大量に取れる・・・危険なヨウ素を体内に取り込む前に、ヨード剤を飲んで・・・ところがそれが効かなかった。つまりチェルノブイリやヨーロッパの子供たちには、間違いなく甲状腺のガンがすさまじい勢いで発生する。（P 58～61）

ほぼ事実 (ただし、相当な量を取り込むはいかんにはなるまい。
また、セシウムは筋肉だけでなく体中まんべんなく広がる。)

ウソ (そもそも炉内にあったのは 8 億 7000 万キюри。
このうち放出されたのは 1割以下の 8,000 万キюри。)

おそろくウソ (ソ連国内の真偽を確かめることは困難)

ほとんどウソ (・ソ連のレポートが完全に事実を伝えているとは断言できず、
全体的にいうことはあり得ない。
・ソ連で起こったことが全世界でも起こるとは言えない。)

一部事実 (・5キюриの ^{60}Co でいくらでも人を殺せるのは事実。 (2)
・放射線を浴びただけの死体に放射能(死の灰)は含まれていない。
・5キюриもの高い放射線源が全く管理されずにあちこちに移動
するとか考えこそ非科学的。)

ウソ (例えば オーストリアでは ^{131}I の甲状腺への取り込みを 85% も
減らすことができています。)